

1月21日(月)

## ステパノの確信

聖書朗読 使徒 7:51~60

こう言った。「見なさい。天が開けて、人の子が神の右に立っておられるのが見えます。」  
使徒 7:56

石打ちで残酷に殺されることには、何も楽しいことはありませんが、キリスト教徒としての最初の殉教者は、神様を確信するというビジョンを得ました。ステパノは神様の右に立っておられる人の子を見ました。今日の聖句の箇所では、天国について、いくつか記述されています。ステパノは神様のご栄光を見るという祝福を受け、神様の右に立っておられるイエス様を見て、イエス様を「人の子」と記しています。

天国を見ることは、重要な出来事と結びついています。イザヤとエゼキエルの場合には、天国を見ることで礼拝に導かれました。黙示録のヨハネは、神の子羊を見るために天に一つの開かれた門へと導かれます。ステパノの場合は、イエス様が神様の右に立っておられるのを見ています。その他の聖書の箇所では、イエス様は座っていらっしゃいます。イエス様が立っておられることは、そのときの緊迫さとイエス様が強く関心を持っていらっしゃったことをあらわします。

「人の子」という表現は福音書の中で82回登場しますが、常に、イエス様ご自分のことを言い表すときに用いられています。ステパノはイエス様のことを愛する友としてあまりにも鮮明に見たので、新約聖書の登場人物の中でただ一人、イエス様のことを「人の子」と呼びました。

イエス様は天国におられ、神様の右に立っていらっしゃいました。私たちがこの箇所の聖句をもっとよく理解するようになると、御座が背景となり、人の子が浮き上がって見えてくるでしょう。

讃美歌 312

祈り すべての慰めでいらっしゃる神様。イエス様を感謝いたします。あなたの絶えざる愛についてのあなたからのメッセージをしっかりと理解できるように助けてください。

イエス様の御名において。アーメン。

アル・コーネル

ウィスコンシン州 ヒルズボロ

## 今日のカ

2013年1月21日~1月27日

翻訳 村越克子

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

1月22日(火)

## 別れを告げる

聖書朗読 使徒 20:24~38

主よ。今、私は何を待ち望みましょう。私の望み、それはあなたです。

詩篇 39:7

私のオフィスビルの1階にある英国紅茶店が、30年間の営業を終了しました。「チューダー家」という名のその店で、私は数え切れないほどの人と会い、昼食をとにもしました。私はその店に別れを告げ、その店で楽しんできた最後の紅茶の写真を撮りました。でもそのあと、毎日淋しい思いをしました。その店はもうないのです。

悲しみと喪失感は年齢とともに増すと聞いたことがあります。私はそれを信じ始めています。この10年間で両親を亡くしたこと、遠くに引っ越してしまった友たち、仕事の都合で引っ越してしまう可能性のある親しい家族などが、私にはどうしようもないこととして、毎日のように思い出されます。

パウロは何度も愛する人たちを残して旅立ち、別れの際、彼らは泣きました。パウロも泣いたに違いありません。特筆すべきことは、別れを告げたあと、パウロが別れを悲しむことはなかったということです。パウロは、神様が彼の人生に目的をお持ちでいらっしゃることを知っていましたし、彼はそれを果たすことを望んでいました。神様の目的を全うすることこそが、彼の一番の目的でした。ですから、パウロは人々に別れを告げ続けたのです。

自分がずっと持っていた物や、長くおつき合いのあった人と別れるとき、私はパウロのようでありたいと努めます。自分の人生が、あらゆる状況において目的があることを覚えたいと思います。その目的とは、神様にご栄光を帰することであり、みこころにかなうことです。でも、天国では、もうさよならを言うことはありません。

讃美歌 339

祈り 主よ。あなたは私の始まりのときも、終わりのときもご存知です。あなたは私を御腕の中に抱いてくださいます。あなたの愛を覚えるとき、私の現在の悲しみが癒されますように。

イエス様の御名において。アーメン。

シャリン・ムア

カリフォルニア州 パシフィック パリセーズ

1月23日(水)

## ピリポはさえずりません

聖書朗読 使徒 8:5~13

人々があなたがたに、霊媒や、さえずり、ささやく口寄せに尋ねよ。」と言うとき、民は自分の神に尋ねなければならない。  
イザヤ 8:19

シモンは図々しくも、「私のことを『大能』と呼びなさい」という自己中心的な発言をしていました。人々は、そのように彼を呼びましたが、それはシモンの魔術に驚かされたからでした。シモンは、サマリアの人々の心を支配していました。シモンのさえずりは、生きた希望をもたらさなかったため、サマリアの町に喜びはありませんでした。

サマリアの町に来たピリポはささやたり、つぶやいたり、自分のことを語ったりはしませんでした。ピリポは「人々にキリストを宣べ伝え」「みことばを宣べ伝えました」。群衆は、熱心に彼の語ることに耳を傾けました。信仰は恐怖を取り除き、希望は運命論を払いのけ、解放が抑圧に取って代わりました。福音の光が、迷信によって長いこと暗く閉ざされていた心から陰を消し去りました。

今日の聖書の箇所は、私たちに疑問を投げかけます。私たちが福音を伝えることは、ピリポのときと同じように喜びをもたらすかしら？ 私たちの言葉は、私たち自身のことではなく、十字架で死なれて、よみがえられたキリストをちゃんと伝えるかしら？ 天国を今現在、実際に力を及ぼして実在するものとして語るができるかしら？ ピリポは、福音を宣べ伝えるときに、さえずったり、つぶやいたりしませんでした。私たちも、そんなことはしないと確信しましょう。

主よ。私に話しかけてください。

あなたの御声の生きた響きの中で私が語れるように。

———— フランシス・リドリー・ハーバーガル

讃美歌 332 (フランシス・リドリー・ハーバーガル作詞)

祈り ああ主よ。あなたが与えてくださる貴いものを人々に伝えられますように。そして、多くの心の隠された深さに届くように、私が語る言葉に羽をつけてください。

イエス様の御名において。アーメン。

エルマー・プラウト

カリフォルニア州 ウッドランド

1月24日(木)

## 板ばさみになる

聖書朗読 使徒 15:35~41

そして激しい反目となり、その結果、互いに別行動をとることになって、  
使徒 15:39

反目は起こるものです。どのようにしてそれが始まるか、また突然起こることがあることを私たちは知っています。パウロとバルナバは「突然」反目しました。バルナバは、いとこのマルコを宣教の旅にいっしょに連れて行くつもりでしたが、パウロはそれを望みませんでした。パウロとバルナバは口論になり、マルコは板ばさみになりました。

あなたは板ばさみになったことはありますか？ 子どものころ、兄弟のうちの2人が騒いでいるときに板ばさみになったことがあるかもしれません。あるいは、同僚と上司との間や、配偶者と子どもたちとの間などではどうですか。板ばさみになっていて、しかも自分のことで言い争いになっているのは、いい気分のものではありません。自分が責められているようで責任を感じ、事態を解決するのはお手上げ状態です。そして、言い争いが終わると、ホッとするものです。

イエス様は、弟子たちが、誰が一番偉いか言い争っていたとき、上において召してくださる神様を指し示されました。私たち一人ひとりが、従うように召されています。権力があろうと弱い立場だろうと、私たちが命じられていることは、神様に従うことです。板ばさみになることなどありません。イエス様だけを見ていればいいのですから。

神様とイエス様との間で板ばさみになることはありません。イエス様はすでにそこに立っていらっしゃるのですから。

讃美歌 121

祈り 親愛なる主よ。反目や言い争いは好きではありません。板ばさみになったとき助けてください。あなたと私の上にイエス様を置いてくださったことを感謝します。

イエス様の御名において。アーメン。

ロバート・P・マーレン

テキサス州 フォートウォース

1月25日(金)

## 福音の力

聖書朗読 使徒 16:11~15

私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。 ローマ 1:16

福音は、「東」からヨーロッパへと移動します。最初の場所はピリピです。パウロは、ローマ1:16で書いたことを行いました。常に最初にユダヤ人のもとに行き、それから異邦人のところに行きました。ユダヤ教会(シナゴーク)のない場所で、安息日に祈りの場がある川岸でユダヤ教の礼拝者たち会いました。そこで、パウロたちは、テアテラ市から来たルデヤを含む女性のグループを見つけました。テアテラ市は教会が建てられたところ(ヨハネの黙示録1,2章)。ルデヤは紫布(トルコレッド)の商人でした。パウロはルデヤに福音を伝えました。ルデヤと彼女の家の者たち(家族、召使いなど)はバプテスマを受け、パウロたちを自分の家に泊まるように説得しました。

神様は偏ることはなさいませんし、すべての人が救われることを望んでいらっしゃいます。ですから、ルデヤがそうしたように、福音を聞くことを望む心を希望とキリストについてのみことばへと開かれます(ローマ10:17)。知り合いの人が、キリストとともに葬られ、そして新しいいのちを生きようとしないうちに、あなたは残念に思いますか？ そうでしたら、神様の福音を彼らに伝え、神様が彼らの心に小さな穴を開けてくださるのを待ちましょう。ルデヤのような開かれた心は、神様のご栄光のために力のある働きをすることが可能です。

聖歌 407

祈り 親愛なる主よ。私が希望を抱いている理由を分け合う備えをしているとき、また、知るべきことや救われるためにすべきことを、人々に語る用意をしているときに助けてください。

キリストの御名において。アーメン。

キース・H・ホッジズ

テキサス州 マーシャル

1月26日(土)

## 愛は助ける

聖書朗読 ローマ 5:1~11

私たちがまだ弱かったとき、キリストは定められた時に、不敬虔な者のために死んでくださいました。 ローマ 5:6

私の好きな歌の一つに「愛は自分時自身を助けることができない人々を助ける」があります。その歌は物語になっています。お百姓さんのジョンソンさんは病気になるてしまい、畑に作物を植えることができませんでした。ジョンソンさんと彼の家族は、もう一巻の終わりのように思えました。作付けの時期を逃してしまえば、収穫がありません。収穫がなければ、支払いをすることができません。ジョンソンさんは畑を失ってしまいます。

そして、その歌は、ジョンソンさんの代わりに作物を植えてくれた愛すべき隣人たちのことを語ります。収穫のときが来ました。これまでの一番の収穫高です。でも、誰も、誰がこの素晴らしい親切な行ないに参加したかを言おうとしませんでした。隣人たちは、愛からそうしたのです。「愛は自分時自身を助けることができない人々を助ける」ものだからです。

神様の愛とは、このようなものです。罪ゆえに、私たちは自分自身を義とすることはできません。私たちには、自分自身を救うに足る正しがありません。そして、何が起こったのでしょうか？ 私たちが罪人であったときに、神様は愛ゆえに、私たちの罪の犠牲としてイエス様をこの世に送ってくださったのです(ヨハネ3:16)。「愛は自分時自身を助けることができない人々を助ける」のです。

神様の御恵み以外に何も無い。

私たちは、それによって歩み

それによって息をします。

私たち神様の御恵みによって生かされ、そして死にます。

————— ロバート・ルイス・スティーンソン

讃美歌 183

祈り お父様、愛というへりくだった魂とあなたからいただいている御恵みへの感謝を常に持つことができますように助けてください。

イエス様の御名において。アーメン。

エディー・C・ルイス

テネシー州 ジャーマンタウン

1月27日(日)

## 神様がすべてのことを働かせてくださる

聖書朗読 ローマ 8:18~29

愛とは、御父の命令に従って歩むことであり、命令とは、あなたがたが初めから聞いているとおり、愛のうちを歩むことです。 IIヨハネ 6

ときどき思っていたように、物事がすずまないと思うことがあるものです。あなたが必ずすることには、たとえば請求書の支払い、友人への電話、用事を済ませることなどがありますが、それをするのを忘れてしまいます。自分の不注意さや当てにならないことを責めたりしますが、あとになって、ときにははかばかしくなって、そのミスが、自分では思いもつかないいい結果になることがあります。

たとえば、支払いを忘れたことに感謝します。というのは、もっと緊急の支払いが急にきて、前の支払いを払い忘れたおかげで、代わりに払うことができたりするからです。ある人が、ある地域での宣教の働きが挫折したことさえも、その人の実力にもっと合う新しい分野に彼を送るといい結果に結びついたりします。長い道のりを振り返って初めて、私たちは、神様がどのように働いてくださったかを知ります。そのときでさえ、神様のご計画があまりに壮大なので、私たちにはよく理解できないものです。

私たちが失敗したとでも思っている、神様は、ご自身のご計画に従ってすべてのことを働かせて益としてくださいます。神様は力強く、恵み深いお方です。私たちがすべきことは、どのような状況にあっても、愛し感謝することです。

讃美歌 80

祈り 主よ。あなたのお導きを求め、あなたの御恵みを見ることができますように。

イエス様の御名において。アーメン。

アレトリッチ・ブラゴビッチ

ニューハンプシャー州 バーノン